

ジムカーナへのハンコックタイヤ仕様に関してのご案内

ジムカーナ競技へ参加するに至って、海外製であるハンコックタイヤの使用は大丈夫かどうか、についての説明です。結論からいいますと、使用は**問題無**です。理由としましては、

1. 各車種の保安基準に沿っているタイヤ構造であること
2. 問題なく公道走行ができ、一般に市販されているタイヤであること
3. タイヤ協会届け出を出していない可能性のあるハンコックタイヤの場合、使用したタイヤがハイグリップラジアルなのか、セミレーシングタイヤなのかを明確に見分けるため、ハンコック社のパンフレットを持参し、大会運営者へ確認してもらう必要がある。
この件に関しては、ハンコックのパンフレットへは明確に、ハイグリップラジアル、セミレーシングと分けられているので、問題ない。

以上3点が、ジムカーナで使用しても問題ないと結論付けた理由です。

では、なぜ明確にハイグリップラジアル、セミレーシングタイヤが分からなければならないのか？
競技には、ナンバー無車両でなんでもOKなクラスが存在します、このクラスの場合タイヤは特注でも構わないくらい自由です。

上記とは別に、ナンバー付でセミレーシングまで装着OKと、それぞれの大会のローカルルールで、ハイグリップラジアルまでOKのクラスが存在し、セミレーシングクラスにハイグリップラジアルで参加は問題ないが、ハイグリップラジアルクラスに、位置付けのわからない海外製のタイヤで、他を寄せ付けない圧倒的な速さで勝たれての参戦は困ります。もちろん参加者からもクレームがつくと思います。こういった問題が発生する可能性があるため、Z222、Z221が何タイヤなのかを明確にする必要があるのです。

ハンコックタイヤで参加しようとしているユーザーへは、前もって主催者へ、ハンコックタイヤを使用して、目的のクラスへ参加してよいかどうかを、主催者へ必ず問い合わせてもらってください。

※JAFの規則によると、タイヤの種類は、スリックタイヤと一般ラジアルタイヤの2種類しかタイヤは区別されておらず、Sタイヤとハイグリップラジアルの差が明確ではないため、各イベント主催者のルールに従うしかありません。

Sタイヤを明確にするため、ヴィッツレースの規則書を基にしている大会もあります。(下図参照)

第11条 タイヤ及びホイール

①タイヤサイズ:195/55R15
 ②使用するタイヤは全て同銘柄(左右非対称パターンを含む同一トレッドパターン)を使用すること。
 ③T.R.A.が通称「Sタイヤ(モータースポーツ競技専用タイヤ)」と判断したタイヤの使用は認められない。

タイヤメーカー	ブランド名	使用不可タイヤ名称
横浜ゴム	ADVAN	A050/ A049/A048
	FALKEN	RX-VII/RS-V04
住友ゴム工業	FORMULA-R	D93J
	DIREZZA	02G/03G
ブリヂストン	POTENZA	RE11S/RE55S
東洋ゴム	PROXES	R888
Hankook	Venlus TD	Z221

※上記以外のタイヤでもSタイヤに準ずると判断される場合、猶予期間を持たず使用を禁止する場合がある。

④タイヤ及びホイールはいかなる場合も他の部分と接触しないこと。
 ⑤タイヤ及びホイールは車軸中心より前方30度・後方50度の範囲内でフェンダーから突出していないこと。
 ⑥タイヤ中心より両側50mmの範囲内は常にタイヤ溝深さを1.6mm以上有すること。また、常にタイヤのスリップサインは出ているはならない。
 ⑦タイヤの加工または当該大会技術委員長により加工していると判断されるものは使用を認められない。
 ⑧ウォームアップ、クールダウン、溶剤塗布等は認められない。
 ⑨使用できるホイールは「15インチ/7.0JJ+48」又は、「15インチ/7.0J+48」とする。また、使用するホイールは全て同一のものを使用すること。
 ⑩ホイールはスチール製、またはJWLまたはVIAマークのある軽合金製とする。
 ⑪ホイールナットの材質及び形状の変更は認められる。但しホイールディスク面より突出しないこと。
 ⑫ホイールスペーサーの使用は認められない。

17